

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 去る人、来る人

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」。また、その季節がやってきました。市役所の顔ぶれが少し変わりましたが、どうぞよろしくをお願いします。

3月17日、ある小学校の卒業式に出席したところ、校長室に福島県二本松市にある石碑の拓本が貼られていました。

「爾俸爾禄 民膏民脂 下民易虐 上天難欺」
昨年2月、本市の「生活改善学力向上」の視察に二本松市の市長自ら来訪された際、土産に持参されたものと同じ碑文です。「爾^{なんじ}の俸^{ほう}、爾^{なんじ}の禄^{ろく}は、民^{たみ}の膏^{こう}、民^{たみ}の脂^しなり。下民^{かみん}は虐^{しいた}げ易^{やす}きも、上天^{じょうてん}は欺^{あざむ}き難^{がた}し」と読まれています。これは官吏(公務員)の心得を厳しく説いたもので、「お前(武士)の俸給は、民があぶらして働いたたまものより得ているのである。お前は民に感謝し、いたわらねばならない。この気持ちを忘れて民たちを虐げたりすると、きっと天罰があるぞ。」と解釈されています。この精神を忘れず、職員一同、精一杯がんばるつもりです。

■ 新ごみ処理施設基本計画について

合併後、2つあったごみ処理施設のうち、埴生・談合峠近くのごみ処理工場は既に寿命が尽きていて廃止せざるを得なくなり、その後は、小野田・中川沖にある可燃ごみ処理施設をフル稼働して、市内の可燃ごみを処理してきました。これも老朽化していますが、「可燃ごみと資源ごみの分別」という市民のみなさんのご協力のお陰で、資源ごみについては買取業者から年間約5,000万円という代金収入が市に入り、可

燃ごみも、資源ごみが分別された分だけ減量となって、何とか今日まで持ちこたえてきました。でも、そろそろ限界に近づいています。

ごみ処理施設整備の1つに広域処理の方法がありますが、あいにく、美祢市は平成11年に、下関市は平成14年に、宇部市は平成15年にそれぞれ施設を完成し供用開始しています。残念ながら、本市は誕生(平成17年3月)後に建設計画を立てましたので、時期的に間に合いませんでした。

新たな施設は、建設費だけでも50億円を超える超大型事業で、30年間使用することを予定しています。中川沖の現施設の敷地内に建て替える予定です。公募委員を含めた「新ごみ処理施設検討委員会」で協議を重ね、規模(日量90トン)、処理方式(焼却灰等はセメント原料化する)など、5つの基本的事項が決まりました。あとは「建設」と「運転管理」の方法です。供用開始後のランニングコストまで考慮すると、「建設から20年間の運転管理まで」を一括発注する「DBO方式」が経費的に有利ではないかとの指摘もあり、慎重を期して専門家を招聘し何回か部内で勉強会を開きました。そして「公設公営」、「公設民営(DBO方式)」、「民設民営(BOT方式等)」を比較考慮した結果、本市の新ごみ処理施設は「建設」と「運転管理」を切り離し、前者は「公設」とし、後者は、今後、建設と併行しながら鋭意検討することになりました。

対話の日 4月24日(火) 19:00～
厚陽公民館